

“大型連休”もあっという間に終わってしまいましたね！

この連休で温泉につかってゆっくり休めた人、旅行に出かけた人、普段やり慣れない家族サービス？でしっかり疲れてしまった人（因みに、私は飛び石で5日間休みましたが、この部類です！）いつもと変わらず仕事に追いまわられている人（松本先生はここですね！）休みでかえって忙しい目に遭っている人、どこにも行かず、ただひたすらに家でゴロゴロしていた人など、皆さんそれぞれ様々な過ごし方をされたと思います。

お金を使いすぎてお財布が軽くなってしまった人たちは、これからお財布の紐をしっかり締めて次に備えましょうね！

私の住まいのある帯広はというと、5月に入ってようやく春らしくなってきました。とは言っても連休中の7日には雪が降ったりして、まだ安心はできません。桜も中旬にならないと咲かないでしょうし…。寒い中での花見ってビールもまずいし、嫌ですよ！

この冬は異常に雪が多かったせいで、山の上の方はまだ雪景色ですが、晴れた日に十勝平野から眺める日高山脈は、新緑と雪景色がマッチしてとても綺麗ですよ。

皆さんも是非一度遊びに来て下さいねっ！食べ物も美味しいとこですよ～っ！

さて、今回は農文協さんから出版されている「現代農業」という雑誌で2004年5月号に紹介させていただいた“ウンコを出さないシマシマ牛舎”について、もうチョット詳しくご紹介いたします。

私がこの画期的？な方式の牛舎にお目にかかったのは、鹿児島県大口市で和牛肥育をされている丸目英明さんに出会ってからの事です。丸目さんは非常に柔軟な考え方の持ち主で、とても勉強熱心だし、研究熱心な方ですよ！それにとっても優しいんです。

私もたびたびお伺いして（丸目さん、お仕事の邪魔をしてすみませんでした！）色々な事をたくさん教えていただきました。

丸目さんが牛飼いを始める前は農協の畜産指導員をしていました。

平成10年に退職し（勿論、円満退職です！）、現場での経験を積んでから長年の夢だった畜産農家として独り立ち。運転資金を得るためにまず生産牛12頭から営農を開始しました。H13年から生産・肥育一貫経営という形で毎年少しずつ増頭して来ましたが、色々試行錯誤した結果、平成16年7月からは生産牛をやめ、現在は肥育牛160頭、経産肥育40頭の肥育一本に絞って経営をしています。

今回ご紹介する“ウンコを出さない牛舎”は平成14年11月に丸目さんが建設した牛舎の一部です。ただ、この部分は生産牛用に作ったのですが、前述したように経営形態を生産・肥育一貫から肥育一本に変えて牛舎を改造したために、残念ながら現在はその面影しかありません。でも、この方式がうまく行ったということで近くの生産者の方々が同じ構造の牛舎を建設していて、ウンコを出さずに随分楽をしています！

他の方々の状況は、この部屋でまた詳しくご紹介いたしますね。

今回は創始者？である丸目さんの牛舎が完成したH14年11月から改造するまでの状況を紹介させていただきます。

まずは丸目さんご夫婦を紹介いたしますね！（写真 1）

この写真は約2年前に撮ったものですが、今でも変わらず、いつも仲が良くて若々しいですよ！（本当だってば！）

ウンコを出さない牛舎を作ろうと思ったきっかけは、自分で牛飼いを始めて徐々に増頭をしていくにしたがって、牛の世話に掛かる時間より、出てくる糞の後始末に掛かる時間が増えて来た時だそうです。



写真 1 丸目さんご夫婦

「俺は“牛飼い”なのに、牛の世話にかかる時間より糞の始末にかかる時間が多いのってなんか変だ！」って…。

さらに、家畜排泄物法の本格的施行もH16年11月に迫っていて、「何とか牛舎からウンコを出さないで牛を飼う方法はないものか？」と、飲んでもさめても…いや、寝ても覚めても考えていたとか。しかし、考えていてもなかなか結論は出ずじまい。

そこで、行動力のある丸目さんは、「何はともあれ考えつく事を色々やってみよう！」という事で、家の近くに4牛房、180㎡の試験牛舎を新たに建設。来る日もくる日も牛と床の状態の観察し、試行錯誤を繰り返しました。

約3年間くらいの研究期間の合間に牛舎建設のプロ、(有)トラストテックの田中社長とも相談しながら、ようやくウンコを出さない牛舎の青写真が出来上がりました。

そしてその作品？が今からご紹介する一年間ウンコを出さない“シマシマ牛舎”、またの名を“セービング牛舎”(省力牛舎)です。やっぱ、“必要は発明の母”ですよね！



写真 2 は牛舎の入り口、写真 3 は生産牛のいるシマシマ牛舎部分の外観です。この牛舎には“シマシマ屋根”以外にも丸目さんの斬新的な考え方が表れています。

写真を見てもわかるように、入り口はトラックが入れるように間口が広く、屋根も高くなっています。これは肥育牛舎と生産牛舎、乾草庫(飼料庫)を、一つの建物にしちゃったせいです。なぜって？ 建設コストの削減と省力のためです。つまり、乾草庫(飼料庫)を別棟で建てるより牛舎の幅を広くして乾草を置くスペースを取った方が建設コストは安く済むし、さらにトラックで牛舎内まで持ち込めるので、飼料を飼槽まで運ぶ距離、時間がぐっと短縮できます。経費および労力の削減、余った時間は牛の観察。ホント、合理的でしょう？ 平面図を見た方が解りやすいでしょうから、下に載せときますね。

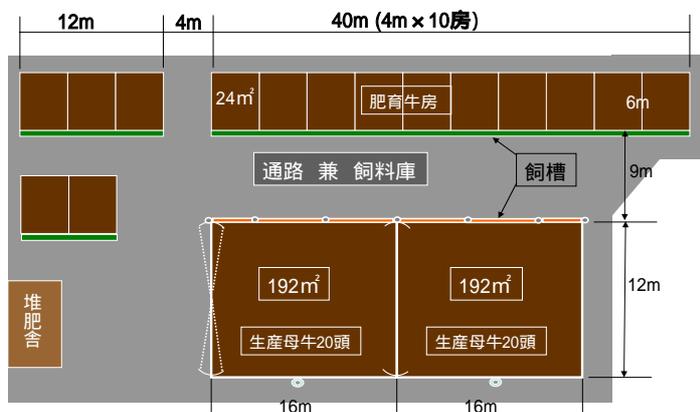


図 1 牛舎平面図



写真 4 通路兼乾草庫

図 1 の中で下の 2 部屋が生産母牛の所で、シマシマ屋根になっています。写真 4 の右側の部分ですが、屋根がシマシマ構造になっているのが解りますか？

白く写っている所が光を通すポリカという屋根材、濃くなっている所は通常の畜産波板です。この辺の詳しいお話は長くなりそうなので次回ということにしておきます。

ここではまず、この“ウンコを出さないシマシマ牛舎”建設にあたって大切なポイントを先に挙げておきましょう。

1. 屋根材は**採光**できるようにする：牛舎は東西方向、屋根材は南北方向（日光による牛床の乾燥、殺菌：太陽光線の利用）
2. 牛舎内の**風通し**を良くする（牛床の風乾、良好な換気：風の利用）
3. 直下式あるいは順送式扇風機の設置（非常用？）
4. 生産牛 1 頭当たりの**床面積は最低でも 10 m²以上**（牛床が糞尿で泥濁化しない密度）
5. **生菌資材**（アースジェネターなど）の利用（臭気減および牛糞分解促進？）
6. 牛舎の近くに堆肥舎の設置（最小限のもので可：台風などの非常用？）

このように様々な条件（これだけではないのですが）を満たして初めて可能になります。

この牛舎での特徴はお金のかからない自然の恵みの太陽と風を最大限利用しているところです。ヒトの都合で作った牛舎内で、牛さんたちにストレスを与えず健康的に飼うためには、“いかに自然に近い環境を与えてあげられるか...” に尽きると思います。

もともと自然の中で生活していた生き物ですから、広々した空間と日光と新鮮な空気は、牛さんたちにとっては最高の恵みでしょう？

では、牛舎にウンコが溜まっていたら何故良くないのでしょうか？

臭いから？ ドボドボになって汚いから？ 作業が大変だから？ 病原菌が増殖して病気になるから？ 牛のストレスになるから？ などなど...理由は沢山ありますよね。

でも、たとえウンコを牛舎から取り除かなくても、これら良くない理由を解決できて、牛さんたちがストレスもなく、ゆったりと過ごせるならば何の問題もないわけですよ！

シマシマ牛舎は先ほど建設のポイントで挙げた太陽の光、風、微生物、牛の習性という自然の恵みを組み合わせ、これらの問題を解決した画期的な牛舎システムだと思います。もちろん、日本国内では北は北海道、南は沖縄までと気候風土は地域によって条件が全く違いますから、どこでも同じ方法で出来るというものではありません。

但し、皆さんの所でも応用は出来る場所は沢山あると思いますので、来月は写真を載せながらもう少し詳しくお話ししますね。少しスペースがあるので、最後に導入 10 ヶ月目の牛舎の様子と、写真 4 の所にイナワラが入った時の状態を載せておきます。 つづく

